

# 特集 窓

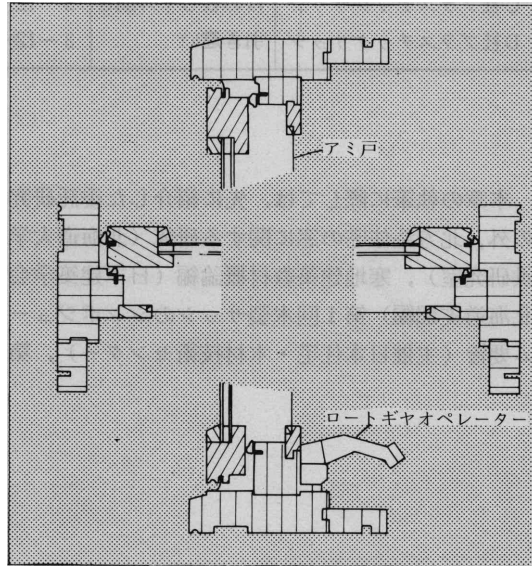
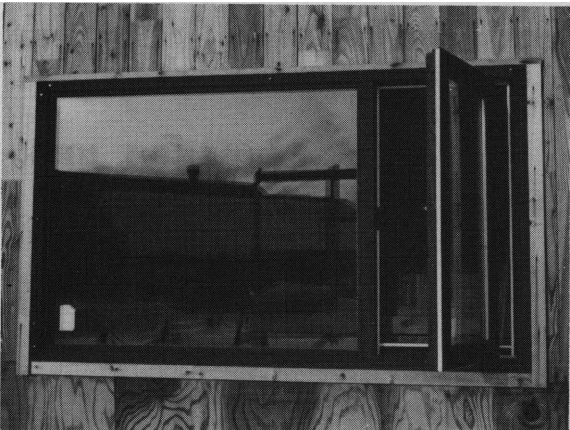
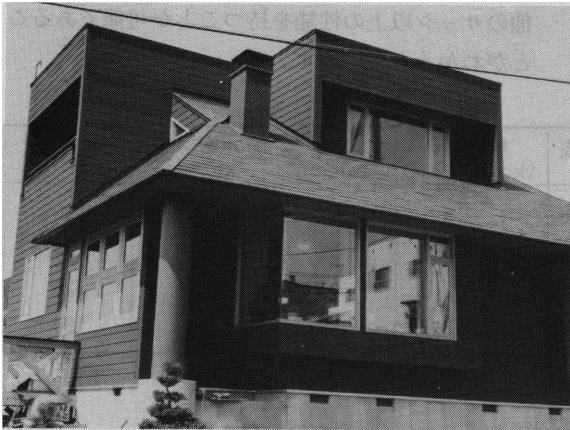
## 内外の木製サッシ

### 寒冷地型木製サッシ

国内では寒冷地向きの木製サッシを専門に製造している企業はなく、兼業で量産しているのは協同組合札幌木工センター（札幌市）及び株新宮商行（小樽市）の2社にしか過ぎません。それも、半注文生産で、大量生産の段階に至っていません。これは、木製サッシが十分知られていないためでしょう。そこで、ここでは上記2社のカタログから、開き窓について縦断面と横断面を転載し、同時に筆者の見た感じから、若干の解説を加えてみました。

新宮商行の木製サッシは、高さ600～2,200mm、幅 500～2,605mm まであり、金具は、アメリカ・

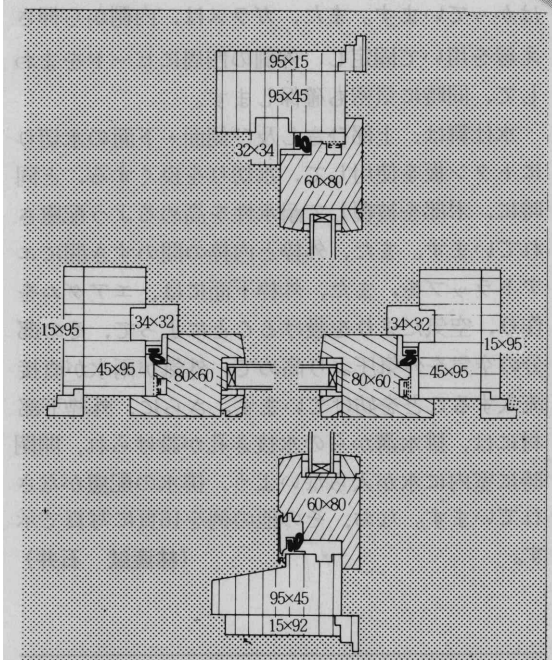
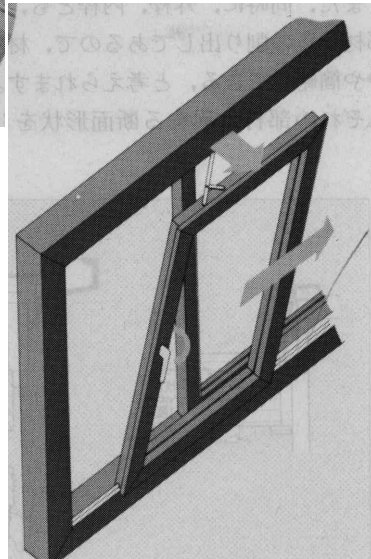
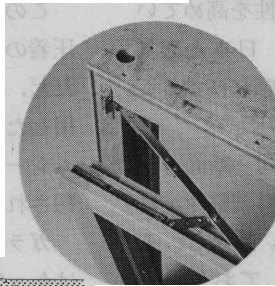
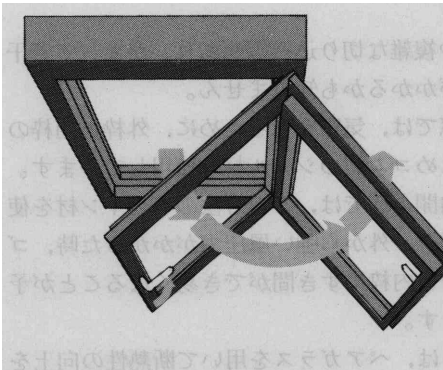
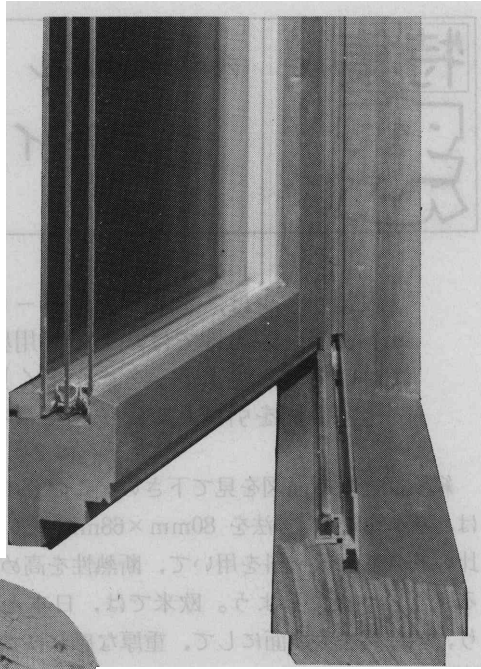
アンダーソン社のものを使用しています。これは、操作方法に特色があり、ハンドルをまわして窓の開閉を行うものです。枠材は、スプルース、ラワン等の外材です。気密・水密性は、特殊プラスチック性のウェザーストリップを用いて確保しています。最近では性能向上のため、引き違い窓等に、シュレーゲル社製のパイルベースのフィンシールを用いています。これは開閉のために若干力が必要ですが、気密・水密性はかなり向上するとのこと。塗装はオイルステイン系の塗料



外開き窓（新宮商行）

(1度目は工場で、仕上げを現場で行う)を2度塗りしています。

札幌木工センターの木製サッシは、高さ750~2,175mm、幅510~2,610mmのバリエーションをもち、金具は、西ドイツ;フランク社製のものを使用し、内開き、内倒しが可能な多機能窓です。水密・気密性を得るために、押しつけ型の軟質ゴム製中空パッキン(国産)を外枠四周に取り付けて、高い気密性を確保しています。基本的には、



内開き窓(札幌木工センター)

ガラス、塗装なしで工場から出荷されますが、オプションで、複層あるいは3層ガラス等、また好みの色の塗装が可能です。枠材は、主として、道産広葉樹ですが、ほかに針葉樹、南洋材(特にタウン材等)も希望により使用されます。

(林産試 石井)